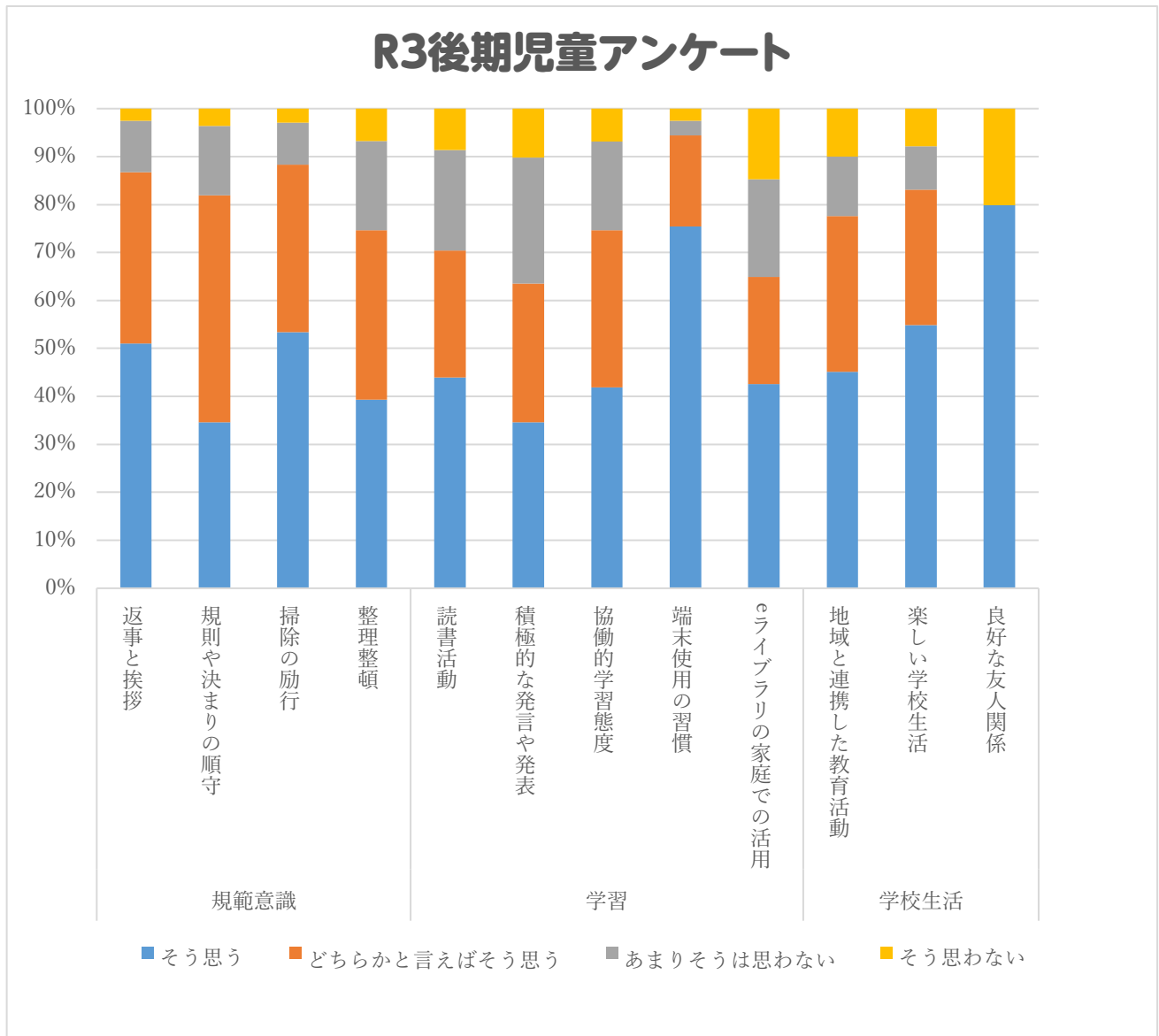


＜令和3年度 後期 児童アンケート R3.12.2 実施＞



1、規範意識の向上に関すること

(1) 名前を呼ばれたら「はい」と返事ができましたか。先生や友だち、見守りの方に「おはようございます」を言えましたか。

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童は 86.8%で、前期の 89.3%よりも少し下がっています。しかし、年度当初に比べ、朝の挨拶ができる子どもは多くなっています。特に低学年児童が地域の方の顔を覚え、挨拶を交わせるようになりました。高学年児童もその様子を見て刺激を受けています。

現在、教職員は、子どもたちの職員室への入室時の挨拶指導に力を入れています。「失礼します。〇年〇組の〇〇です。」を言えず、黙って入って鍵を持っていく子、職員室に入るなり「〇〇先生は？」とだけ言う子が1年生から6年生までたくさんいます。そこで、子どもたちに入室時のマナーを守らせることに取り組んでいます。





(2)「チャイムを守る」「廊下を歩く」などの学校の決まりや学級での決まりを守れましたか。

「そう思う」は前期アンケートの 44.7%から 34.5%に 10 ポイント以上下がりました。「どちらかと言えばそう思う」は 47.4%です。社会生活を送るためには、ある程度の規則や決まりを守らなければなりません。自分勝手な行動は、本人にとっては心地よいかもしれませんが、周囲の者にとっては迷惑であったり邪魔になったりします。子どもたちを良き社会人として育てることも学校の役割で、時間や授業規律を守らせ、全ての子どもに学びの場を保障することが大切です。

一部の児童による授業中の離席、おしゃべり、タブレット端末でのゲーム、給食の歩き食べ、あまりにも早すぎる登校など、目に余る行為に周囲の子どもたちがどう感じているかを本人たちは気づかなければいけません。公共心や道徳心が高まるよう、保護者の皆さんにもご協力いただき、子どもたちの心の指導に力を入れたいと思います。

(3)まじめに掃除をしましたか。

「そう思う」と答えた児童は 53.4%、「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童は 34.9%、合わせて 88.3%の児童が肯定的な回答をしています。開校以来 43 年が経過し、教室や廊下に汚れが目立ちますが、子どもたちは真面目に熱心に掃除に取り組んでいます。手が汚れるぞうきん掃除も嫌がらず、一生懸命廊下や教室の床を拭く姿は立派です。



(4)忘れ物や落とし物をしないよう、身の回りの整理整頓をしていましたか。



「そう思う」は前期アンケート 47.8%から 39.3%に下がり、「どちらかと言えばそう思う」は 35.3%で、肯定的な回答をした児童は前期の 80.3%から 74.6%に下がっています。整理整頓をして自分の物の管理をすることは、集団生活をする上で求められる重要な要素です。そして、物を大切にすることにもつながります。しかしながら、個人懇談時に昇降口でご覧いただいたように、学校では持ち主不明の物がたくさん

あります。制服、制帽、水筒、時計、鍵、色帽子、靴下、跳び縄など、「なくしたらすぐわかるのに、どうして捜しに来ないのだろうか。」と思います。ご家庭でも靴を揃えることやおもちゃ箱、たんすの中、勉強部屋を片付けることを習慣化させてください。

2、学習について

(5)読書タイムには熱中して本を読めましたか。

「そう思う」と答えた児童は 44.0%、「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童は 26.5%、合わせて 70.5%の児童が肯定的な回答をしています。朝の読書はたった 10 分間ですが、このわずかな時間に本の世界に入り込める集中力は素晴らしいと思います。子どもが本に熱中できるのは、本が面白いから、本が好きだから、読んでもらえるから(図書ボランティアさんのご協力です。)だと思いますが、図書室も充実しています。11月20日のオータムフェスタでは、山中学校図書館司書が地域の方に図書室をご案内しました。また、本校は図書委員会の活動も活発です。2学期にはビブリオバトルを行い、全校児童が投票してトップ賞を決めました。このような活動は来年も継続していきたいと思います。

(6)自分の考えをみんなの前で発表できましたか。

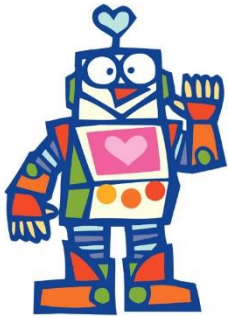
「そう思う」と答えた児童は 34.5%で前期の 39.0%からわずかに下がり、「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童は前期アンケートと同じ 29.0%で、合計すると 73.6%です。子どもたちの学習の様子を見ていますと、話すのが好きで思ったことをすぐに口に出すタイプの児童が授業を引っ張っており、それが、「ちょっと時間があれば自分の意見をまとめて話せるのに……。」と思っている児童の発言を無くしてしまう状況を作っているのかもしれない。じっくり考える時間と活発になんでも言える時間を区別し、そのような児童も発言が十分できるような授業にしていきたいと思います。



(7)友だちの考えに対して、賛成や反対の意見を言えましたか。

この設問に「そう思う」と答えた児童は 41.8%、「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童は 32.8%で、合計すると、肯定的な回答をした児童の割合は前期とほぼ同じで 74.6%、でした。相手の意見を聞いて自分の立場を明らかにすることは、非常に難しい学習です。「聞くこと」「考えること」「話すこと」の 3 つをしなければなりません。そのためには「書くこと」も必要です。聞いたことを理解して、自分の意見との違いを明らかにする論理的思考力が必要ですので、授業では「書いて自分の意見をまとめる」ことにも力を入れていきたいと思っています。

(8)タブレット端末を使った授業に慣れましたか。

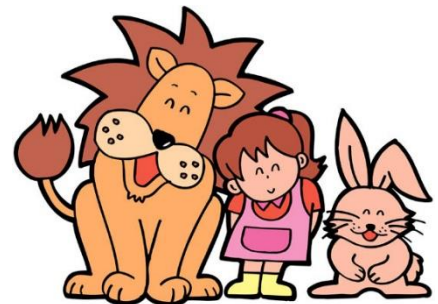


「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童は、合わせて 94.4%で、前期児童アンケートの 91.3%から少し上がりました。2 学期は早々にひと月ほどオンライン授業が行われ、全児童が自分のタブレット端末で授業を視聴しました。よって、どの子もタブレット端末を使った授業にはかなり慣れたと思っています。

子どもたちは、慣れるにしたがって、知らなかった機能を知り、タブレット端末の操作は奥深いと感じたのではないのでしょうか。友だち同士で教え合ったり、11 月から週に 1 度来ていただいている ICT 支援員さんに聞いたりして、子どもたちはどの子も「できるようになったこと」が増えています。3 学期は ICT 支援員さんによる授業も計画していますので、端末操作のスキルを子どもたちが伸ばせるよう、願っています。

(9)e ライブラリを使って、家で勉強しましたか。

「そう思う」と答えた児童は 42.6%、「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童は 22.3%、合わせますと 64.9%になり、前期の 46.7%から 18.2 ポイント上がりました。1 学期、低学年は自分のタブレット端末を自分で起動させることも難しく、担任は一斉指導がなかなかできませんでした。しかし、夏休み中に教員全員が研修し、また、ICT 支援員に児童の手助けとともに教員の技術指導もしていただき、e ライブラリでの学習ができるようになってきています。長期休業中の家庭学習課題も出す予定ですので、子どもたちが使いこなせるようになるのを期待しています。



3、学校生活全般について

(10)地域の方に教えてもらったり、一緒に活動したりして思い出に残る勉強ができましたか。

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童は、合わせて 77.5%で、前期アンケートの 65.2%よりも約 12 ポイント上がりました。2 学期は各学年で地域の方と交流する取組や地域の方が先生になって教えてもらう授業、地域の方に授業の補助をしていただく授業がありました。そこで子どもたちが得たものは知識や技術だけではなく、温かく見守る近所の方の存在です。家族や親戚以外で、自分の事を大事にしてくれる人がいることに気が付いたのではないのでしょうか。優しく見守ってくれる人に気づくことで、郷土を愛する心も少しずつではありますが、育んでいきたいと思います。



(11)学校での生活は楽しいですか。

「そう思う」と答えた児童は 54.9%で前期アンケート時の 62.5%よりも 7 ポイント以上下がりました。「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童は 28.2%で、合わせると 83.1%の児童は学校生活に楽しさを感じていることとなります。しかし、12.5%が「あまりそうは思わない」10.0%が「そう思わない」と回答しており、非常に心配です。2 学期は 121 日間という長い日数で、子ども同士のトラブルがたくさん見られました。学級での友だち関係が落ち着き、目に余る身勝手な態度やふるまいもあり、保護者の皆さんからの連絡や他の児童からの話で担任が知ることもしばしばありました。どの子どもにとっても楽しいと思える学校にまだまだ至っていないことを反省し、子どもたちが抱えるストレスや不満を小さいうちに解消していきたいと思います。



(12)いじめられて困ったことや悩んでいることがありますか。

この設問に対して「ある」と回答した児童は前期アンケート 17.5%から 20.2%になり、100 人以上の子どもたちが、何らかの悩みやトラブルを抱えていることが分かりました。いじめの未然防止と早期発見、早期対応のために、児童会は意見箱を設置していますが、校長室前にも悩みの投書箱を設けました。今まで 2 か月あまりで 18 件の相談が子どもたちから寄せられています。相談内容によっては担任とともに聞き取りをしたり、保護者にも連絡をしたりしています。相手を見下した発言や、正しいかどうかを判断しないで行う軽はずみな行為には、厳しく指導していますので、この取り組みは今後も続けていきたいと思います。

